

津ライスニュース

令和3年産水稻 作柄報告(速報版)

令和3年11月19日

津地域農業改良普及センター

電話:059-223-5103

令和3年産水稻の作柄

三重県、中勢とも作況指数99の「平年並み」

生育経過

<早期栽培の概要>

育苗期間中は気温が低い日が数日ありましたが、全般に気温はやや高く、苗丈は確保され、根張りは良好でした。田植え作業の中心となる4月第4半旬～5月第1半旬の天候は、周期的に雨が降っており、雨の合間を縫っての作業となりました。

4月下旬には風の強い日があり、一部で植え傷みをしたところがありました。

5月中頃から5月後半にかけて曇りや雨の日が多く、日照が非常に少なくなりました。このため、初期の生育が遅れ、分けつが少ない状況が続きました。5月末から6月中頃までの好天により生育の遅れを取り戻し、この頃によやく分けつも増加しました。出穂期は4月末植えて7月20日～23日頃となり、平年並み～2日程度早い状況でした。登熟期前半となる7月下旬から8月上旬は天候に恵まれましたが、登熟期中～後半となる8月中旬を中心に雨が頻りに降り、日照不足により後半の登熟がやや悪くなり、粒の肥大がやや劣ったと思われます。

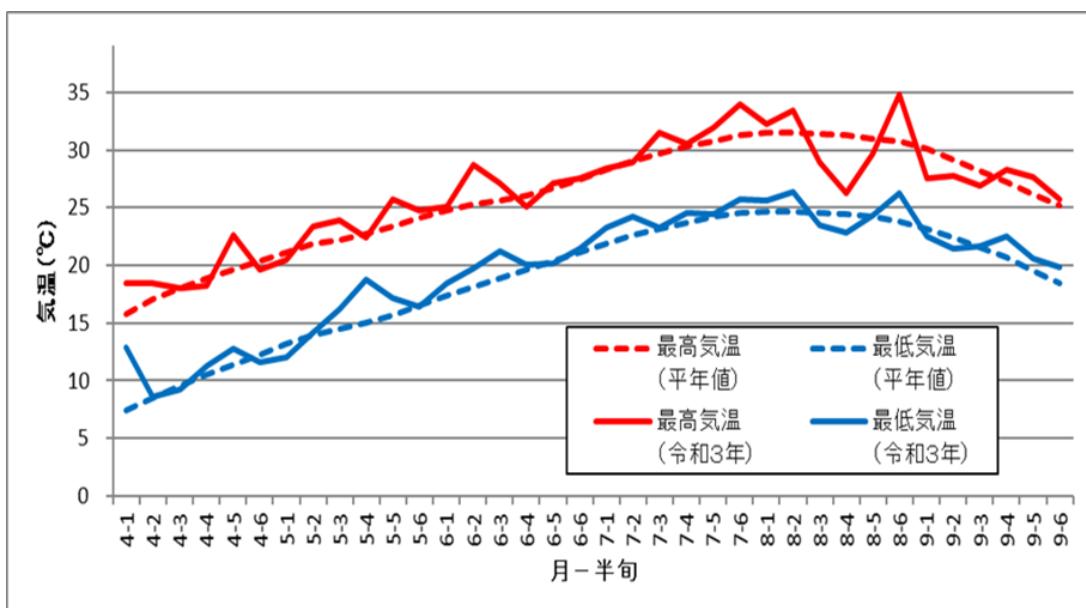
今年の夏は猛暑日といわれる35℃を超える日が少なく(7/26、8/9、26～29)、8月中旬が低温になったこともあり、高温障害は例年より少なくなりました。

9月に入って再び雨の日が多くなるなど、適期収穫が難しい年となり、一部で収穫遅れによる品質低下が見られました。

気象経過

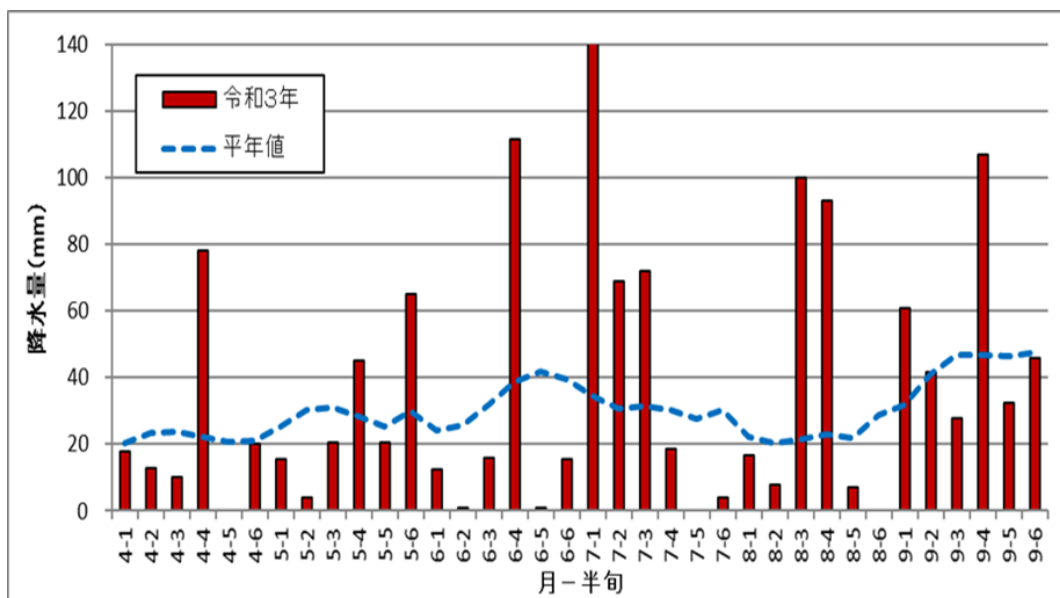
<気温>

4月第6半旬から5月第1半旬にかけてやや気温が低かったものの、以降は8月第2半旬まで平年より高めに気温が経過しました。8月第3から第4半旬は天候がすぐれず、気温が低く経過しました。



<降水量>

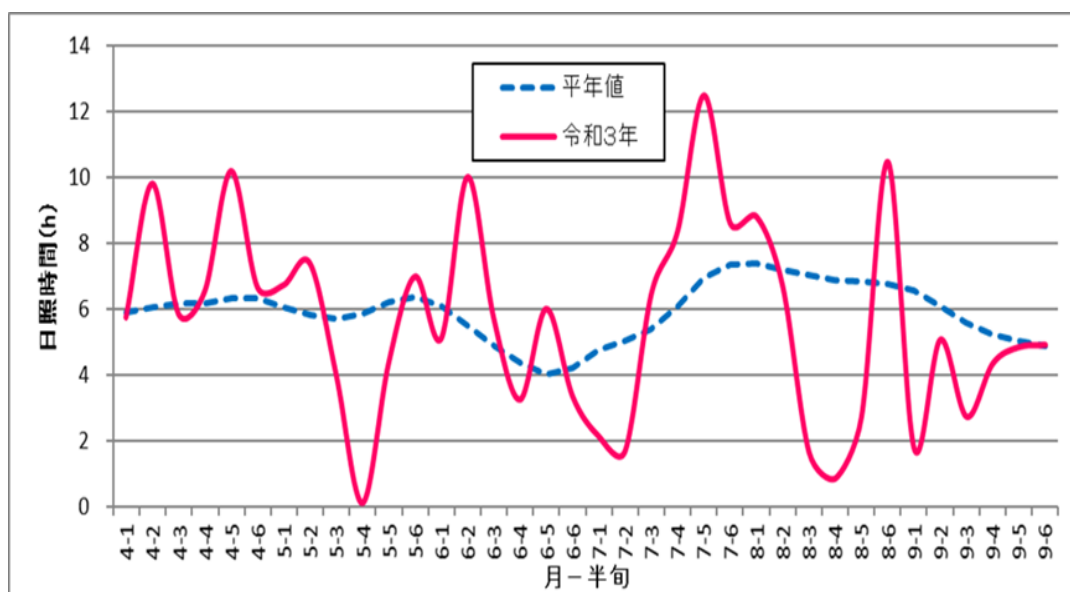
5月後半は降水量が多くなりましたが、6月前半は少なくなりました。6月第4半旬及び7月第1～第3半旬にまとまった量の雨が降りました。(梅雨入りは一旦5月16日に発表されましたが、その後、6月13日に訂正されました。)その後、8月中旬は雨が続き、降水量が多くなりました。8月下旬は比較的好天が続きましたが、9月に入ると再び雨が多くなりました。



<日照時間>

5月第3半旬～第5半旬にかけて曇りや雨の日が多く、日照がきわめて少なくなりました。

7月第3半旬～8月第1半旬にかけては日照が多くなりました。それ以降は8月第6半旬を除いて日照が少なくなりました。



病害虫の発生状況

<発生の概況>

5月中旬から下旬にかけて雨や曇りの日が多く、その後も6月半ばから7月半ばにかけて雨の日が多くなったことから、葉いもちの発生が各地で確認されました。特に箱施用剤での防除を行っていないところで発生が目立ち、一部でズリ込み症状が見られました。8月中旬以降、再び雨が多くなり、気温がそれほど高くなかったため、穂いもちに移行したところが見られました。その他の病害については、大きな被害が出るような発生はありませんでした。

カメムシは、昨年、発生量が多かったうえ、暖冬で越冬量が多く、早くから発生が目立ちました。しかし、適切な防除と8月中旬以降の雨などでカメムシの活動が抑制されたことなどから、昨年と比較すると被害は少なく済みました。

飛来性害虫であるトビイロウンカが早い時期から確認されるなど、昨年に続いての被害が心配されましたが、大きな影響はありませんでした。

生育基準田等の調査結果

<成熟期調査結果>

本年の生育基準田の調査結果を過去のデータと比較すると、稈長はやや短く、m²当たり穂数がやや多くなっています。

また、農業研究所(嬉野)の作況試験田データを平年値(過去10か年の平均)と比較すると、出穂期が3日早い以外は、ほぼ平年並みとなりました。

○R3水稲生育基準田の調査結果

品種	調査地点	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期
					(本/m ²)	(本/株)	
コシヒカリ	殿村	4月15日	83.0	19.3	388.8	24.8	7月14日
	安濃	4月25日	85.5	18.1	316.9	19.4	7月19日
	白山	4月27日	85.0	19.6	321.1	18.5	7月20日

○水稲生育基準田の調査結果(過去の調査データの平均値)

品種	調査地点	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期
					(本/m ²)	(本/株)	
コシヒカリ	殿村	4月19日	88.3	18.5	354.3	26.0	7月15日
	安濃	4月24日	85.0	18.8	271.7	17.4	7月20日
	白山	4月30日	91.9	18.5	304.4	18.9	7月26日

※殿村のデータはH27～R2の平均値

※安濃のデータはH28～29、R1～2の平均値

※白山のデータはH30～R2の平均値

○農業研究所(嬉野)の作況試験田のデータ

品種	年度	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	出穂期
コシヒカリ	R3	4月26日	85.6	18.8	416	7月12日
	平年値	4月24日	86.1	18.9	412	7月15日

※平年値はH23～R2の10年間の平均

<収量調査結果>

生育基準田の収量調査結果は過去の平均を上回りました。ただし、過去5年間のうち、3年間で作況指数95のやや不良年であったことを考慮すると農水省の公表のとおり、ほぼ平年並みの収量であったと思われます。

本年産については、①5月の日照不足により初期分けつが少なくなったものの、6月前半に天候が回復したことにより、穂数が平年並みに確保されたこと、②登熟期前半の7月下旬から8月上旬が天候良く、稔実は良好であったものの、8月中旬の低温、日照不足により後半の登熟がやや劣ったこと、等で平年並みの作柄になったと考えられます。

○生育基準田の収量調査結果(R03)

品種	調査地点	わら重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	屑米重 (kg/10a)	千粒重 (g)
コシヒカリ	殿村	430.5	507.4	9.0	21.4
	安濃	514.5	462.6	10.6	21.9
	白山	504.0	523.6	11.6	22.8

○生育基準田の収量調査結果(過去の調査データの平均)

品種	調査地点	わら重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	屑米重 (kg/10a)	千粒重 (g)
コシヒカリ	殿村	625.8	494.5	20.3	21.1
	安濃	567.4	397.3	13.5	21.5
	白山	674.4	452.2	13.2	21.6

※殿村のデータはH28、H30～R2の平均値

※安濃のデータはH29～R2の平均値

※白山のデータはH30～R2の平均値

(参考)中勢地区の作況指数

H28:105、H29:95、H30:100、

R1:95、R2:95

米品質の状況

<農産物検査結果の概要>

令和3年産米の農産物検査結果によると、1等米比率は、県全体で 49.3%です。一方、津地域の1等比率は 43.8%と県平均より低いものの、昨年(23.1%)より高くなっています。2等以下に格付けされた理由は、背白、腹白、基部未熟などのいわゆる白未熟粒によるものが主となっています。白未熟粒発生の主な原因は高温、日照不足等による玄米へのデンプンの蓄積不足によるものです。登熟期が例年ほどの猛暑ではなかったものの、7月下旬の高温や8月中旬の日照不足が影響したと考えられます。なお、昨年度、品質低下の要因の一つとなったカメムシによる斑点米は少ない状況です。

○R3年産米 1等比率(R3.11月現在)

県全体		津管内	
R3	昨年	R3	昨年
49.3%	40.1%	43.8%	23.1%

<次年度に向けて>

○土づくり

気候変動により、猛暑や日照不足など異常気象の年が多くなっています。このような条件下で水稻を安定的に生産するためには、根を丈夫に張らせ、土壌に必要な養分がバランスよく含まれていることが必要です。稲わらのすき込みや有機物の施用を行うとともに土壌診断を活用し、ケイ酸などの不足する養分を補うなどして、土づくりに取り組みましょう。

○スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の発生が多かったほ場では、土壌が乾燥して硬い時期に、低速で土壌を細かく砕くように耕起を行い、貝を物理的に破砕するとともに冬の寒さにさらして殺貝しましょう。

○病虫害防除

いもち病については、収量に大きく影響する病害であり、まずは葉いもちの発生を抑えて穂いもちへの移行を防ぐことが肝要です。箱施用剤の使用など、予防を中心とした適期防除を心がけましょう。

本年産では、カメムシの被害は比較的少なく済みました。しかし、暖冬傾向が続いているため、カメムシが越冬しやすい環境にあり、今後も多発が懸念されます。不稔籾の発生や斑点米により収量、品質の低下要因となります。ほ場周囲の荒廃地対策や草刈り、穂揃い期以降の地域一斉防除などを組み合わせて、カメムシの被害を防ぎましょう。

○適切な水管理

活着後は、できるだけ浅水管理(2~3cm)にして日中の水温確保に努め、分げつの発生を促しましょう。本年度のように5月の天候がすぐれない場合には特に初期の水管理に注意が必要です。

水を溜めっぱなしにすると、土中の酸素が不足することによって、根が弱り、下葉の黄化や枯れ上がりが進みます。中干しまでに間がある場合は、一旦軽く干して再度入水しましょう。

中干しは、生育状況に応じて開始時期を調整しましょう。1株20本程度の茎数が目安です。土壌表面に小さい亀裂が入れば中干し終了です。中干し後は、こまめな間断かん水を行い、土壌に適度な水分と酸素を供給し、根の健全化に努めましょう。

落水時期は収穫作業に支障が出ない程度(収穫7日前以降)に遅らせ、後半まで適度な土壌水分を保持して収量・品質の低下を防止しましょう。